

第 25 回生命科学研究科シンポジウム開催報告

統合生命科学専攻 全能性統御機構学分野

中野雄司

2024 年 6 月 12 日に、第 25 回目を迎える生命科学研究科シンポジウムを開催致しました。新型コロナウイルス感染症の蔓延後、昨年議論を経て復活したオンラインなしでの現地開催も、今年は議論すらもなく現地開催が決定となるなど、コロナも完全に落ち着いたという状況になり、芝蘭会館・稲盛ホールを会場として行いました。

昨年度は、2 日間で行っていたシンポジウムを 1 日間に纏める試みがなされましたが、概ね感想は好評と思われましたため、今年も 1 日での開催と致しました。昨今は参加者の過密状態も気にしなくても良くなっていることから、人数制限も特に設けなかったことにより、266 名と多くの参加者の方々にお越し頂きました。当日は朝 9 時 30 分の最初のセッションから多くの参加者で座席が埋まり、シンポジウム終了時まで、活気のある発表と討論が繰り広げられ、密度の高いシンポジウムを開催することが出来ました。

シンポジウムでは、生命科学研究科に所属する計 27 名の教員にご講演頂きました。高次生命科学専攻からは研究室を主宰する教授に、一方、統合生命科学専攻からは教授以外の先生方に、研究科を構成する多彩な学問分野の歴史的な蓄積や背景に基づいた成果から、新しい概念や新しい技術に基づく成果まで、最新の研究成果を発表して頂きました。例年のセッションは、扱う生物種や細胞種でグループ分けされた発表となることが多かったのですが、今回はささやかな試みとして、発表演題の分類を、研究で扱う生命現象に基づいて、細胞動態、転写制御、シグナル伝達-膜タンパク質、シグナル伝達-タンパク質間相互作用、環境応答、および英語セッション、の 6 つの分類で分けました。生物種を越えて共通の生命現象に着目したセッション分けとすることによって、新しい着想が得られたり、異分野交流の手掛かりになればとの期待からですが、参加者の多くの先生方から面白い試みであった旨のご意見も頂けて一安心しています。限られた発表時間での講演となりましたが、全ての発表で非常に活発で白熱したディスカッションが展開され、ご講演下さった先生方、および各セッションの進行を円滑に進めて下さった座長の先生方に御礼申し上げます。

情報交換会は、場所を変えて時計台下の国際交流ホールで開催しました。情報交換会においても、135 名の事前参加登録があり、シンポジウム内での質疑応答に引き続く積極的なディスカッション、様々な情報交換など、学生と教員の垣根を越え、普段会う機会のない学生同士・教員同士の非常に良い交流の場ともなったと思います。最後は参加者全員での集合写真も撮影し、盛況の内に終了しました。

末尾になりますが、無事にシンポジウムを終えることが出来たことを発表者参加者の皆さんに感謝するとともに、事前準備や当日進行等、多大なるご尽力を頂きました研究科総務掛はじめとする事務室の皆さま、および教職員の皆さま、また、機器接続や照明等の事前テストや開催当日の運営に主体的に取り組んでくれた研究室のメンバーに、心から感謝の意を表します。

今冬 12 月 2 日(月)には、生命科学研究科の 25 周年記念式典および記念シンポジウムを京大時計台にて開催する予定です。詳細は追って告知致しますので、こちらも奮ってご参加頂けますよう、お願い申し上げます。

